

米國の夏と日本の夏

實業家夫人 林 千代子

夏も半ば過ぎましたが、殘暑のきびしい頃になりました。今年の夏は、いつもアメリカの方で多忙な

暮しを致して居ります主人が、歸宅して居りますので、海にも山にも出掛けません代り、非常に楽しい家庭の生活を送りました。私共には、七つになる女の子と四つになる男の子と二人ございますが、いつも主人が留守勝なので、たまに歸宅して居りますと、子供達の喜びは何とも言はれぬほどでございます。

私共がアメリカから歸朝致しましたのは、今から四年程前でございますが、それからと言ふものは、毎年この夏こそ避暑に參りませうと存じながら、いつも主人が在米して宅には私共ばかりが留守致して居りますので、中々外出することが出来ませんでした。今年の夏こそと存じて居りましたが、主人が歸朝しましたので、また實行が出来ませんでした。この邊は日暮里の岡に高く聳えてゐますので、下には田端が見下ろされて、そんなに暑さも感じません

し、室の窓をあけて置きますと、風がよく這入つて、可成り涼しいございました。

いつも夏になつて思ひ出しますのは、桑港に居つて夏を過した時分の事でございます。アメリカの生活も、紐育やポストンあたりの東部と、桑港邊の西部とでは、生活の様も違ひませうが、私共は主として桑港に居りましたので、此の都會に就いてはよく知つて居る積りで居ります。桑港は割に北部に位置してゐますから、夏はさほど焼くやうなお暑さではないのでございますが、氣候は餘りよくありませんから、夏には太平洋に面した海岸の方に、子供たちを連れて来て、其處に一夏を過す家族達が澤山ございます。私共も、米國に居りますうち、よく子供を連れて、夏毎に、桑港の近くの、サンタ・クルーズやバセフィック・ロップ等の海水浴地へ、參りました。その時分は長女がまだ三つ位の時でございますかから、長女は頭にはつきりとあちらの海水浴地の様か

さまざまであるかどうかわかりませんが、是等の海水浴地には、鎌倉の海濱ホテルのやうな種類の、もつと立派な、もつと設備のよいホテルがございまして、其外には平家で極く涼しさうな貸家もありまして、食事等はホテルでするやうにしてあります。

然しかう云ふホテルの生活は、餘り至れり盡くせりで、却て興がうすふございませうから、少し考へのある方は、都會の文明生活から全く離れた、眞の田舎のテント生活をする人が、年々増してまゐりました。天幕生活をするに一番よい所は、カルフォルニア州でございませう。カルフォルニアは、六月頃から十月頃までは、殆ど雨がなく、夕立さへ降らない位でございませうから、天幕生活で雨に苦しめられるといふやうな事は殆んどありません。それにカルフォルニアの果實や野菜の豊醇な事は、實際行つて見た方ではなければわからない位です。梨でも蜜柑でも、葡萄でも、大小さまざま、種子のあるのやないのや、味の變つた種類、色と云へ味と云ひ、實に立派なものです。それですから、天幕とお臺所道具とを用意して、山へ行きます。人々は果物を積んで罐詰めと

し、それを夏中の仕事として働きます。却て一定の勞働があつた方がきまりがよくて、身心ともに健康になります。また或人々は、一家族が大きな自動車に乗つて、自動車の中にお料理道具を積んで、景色のよい土地を見つけると、先づ其處に天幕をひろげて、數日間野原の生活をし、また子供等が飽きさうになつた時分には、また新しい土地へと進み、自由な旅行をつゞけて行く人々が、殊に増して參りました。この自働車旅行は實に氣持ちよい愉快なものです。日本人のやうに興味性が不足で、避暑は贅澤な生活をし、怠惰に遊んでゐることゝ心得てゐる人達とは、まるで異なります。

又夏期を應用して研究する人々も多く、大學は夏期に生徒が急に増して來まして、女學校等に奉職してゐて通常の勉學の機會を得ない人々の爲に、講習會が澤山開かれます。それ故都會には、地方からのぼつて來る人々でいっぱいになつて居ります。

さてこの話は此處までと致しまして、長女は只今七つにもなりましたので、來年は學校に入學させたのでございませうが、學校の事を今から氣にかゝつて居ります。これがアメリカ等に居りましたから、

學校が數多く設けられてゐますから、子供を入學させるにしても何の心配もありません。我が國では中學校入學難が盛んなやうで、殊に宅の子供は幼稚園生活を経て居りませんものだから、尙更心配致して居ります。都下で有名な小學校は大層入學試験がむづかしく、幼稚園を卒業した子供でも、可成り難關であるやうに思はれますし、また互ひに競争する結果、教師に贈物などしても運動する等といふ事を耳にいたしました。こんな風では誠になげかはしいことゝ存じます。私共は外國に生活した關係もございませうから、語學に重きを置き、基督教的主義のある學校を選ぶつもりで居ります。其上、小學校と中學校と連續してゐる學校でございましたら、同じ教育の方針に教育して頂くことが出来ると思つて居ります。この三つの大きな條件で學校を選びたいでございます。經驗もない者でございますから、皆様の御意見を伺ひたいと存じて居ります。

六大都市の乳兒調査開始

乳兒の死亡率が毎年高くなつて最近の六大都市に於ける一才未満の死亡率だけでも大阪の百人に對して二十七を筆頭に神戸市二十六京都市の二十一、横濱市の二十、東京の十九、名古屋の十七の順序であつて

世界を通じて日本ほど死亡率の激増する國はないので今や日本は乳兒死亡國とまで呼稱されてゐるので斯かる憂ふべき傾向は國家の基礎を覆へすべきものであるから今の内に何等かの具體的の豫防策を講究しなければと内務省衛生局では調査費十五萬圓の中から幾萬の調査費用を割いて愈々來る九月から死亡率の激増、出生率の激減の原因に就て六大都市の乳兒調査を開始する事になつた、夫れて第一著としては東京市から始め死亡率の方は全市悉く、産兒の榮養、養育状態は特に市内人口密集せる深川、本所、下谷、淺草の不衛生地區を選定して衛生局の方では調査課の宇上技師が調査主任となつて調査員を各區に一名乃至兩名宛を設置し市役所、區役所、警察署と連絡を取り

各區で區役所へ乳兒の死亡届けのある毎に死亡原因を調査する方針を採つて約一ヶ年に亘り調査し大體の都市に於ける乳兒の死亡率を知悉して漸次同方針の下に他の五大都市にも及ぼすが特に横濱のある區劃を限定して家庭の保健調査をも序に行ふ事となつた右に就て潮衝生局長は語る「何しろ始めて遣る仕事だから調査員の粗瀆のない様に調査知識の涵養のために

講習會を開いて夫々試みに八月第一回を遣らし九月から本式に著手するが其方法は死亡があつたと聞けば直に懇篤なる書狀を家族に宛て何卒死亡原因を調査員に腹藏なく御話しを願ふの意味をかき送つて書狀のあとから調査員を遣らして調査する大抵各區で五人平均で乳兒が死亡するから擔當も毎日五人平均を調査させる、此の結果勤くとも豫防策の曙光を認定する事が出来ると思ふ」